

平成25年度 学校自己評価システムシート (山村学園高等学校)

目指す学校像	校訓「質実・英知・敬愛」を踏まえ、人格の完成を図るとともに、次代を担うことのできるたくましい人材の育成を目指す。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力の向上と自主自立の精神を養い、生徒の心と志を養うために「キャリア教育」と「7つの習慣J」を融合し組織的に取り組み、自己の在り方生き方を考え「生きる力」を育む。たくましい人材を育成する。 2. 進学実績向上を目指して、進路部・各教科・各学年の連携強化を図り、生徒の学習意欲や進路意識を高め、全生徒の進路(進学)実現を目指す。 3. 安全安心の環境づくりを図るとともに、生徒指導等を徹底し規律ある学校生活を確保する。 4. 開かれた学校づくりを推進し、保護者(後援会)・同窓生(むらさき会)と一層の連携を図る。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	第三者委員	5名
学校関係者		5名
事務局(教職員)		4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					25年度評価(3月31日現在)		
25年度目標					25年度評価(3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人生を送っていくため、人間性を高め自己の目標をしっかりと持てるように、キャリア教育をはじめ、さまざまな学校行事・部活動を通して「生きる力」を養っていく。 7つの習慣Jの指導者養成。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の、在り方や生き方を見つめ、将来の目標に向かって意欲的に取り組む自主性と思いやりの心の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 「QU」と「ココカラ検査」を利用したHR経営。 キャリア教育と「7つの習慣J」から明確な目標設定。 7つの習慣Jの指導者研修。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間性豊かで他を思いやる生徒が増えたか。 将来の目標が明確であるか。 自主的に日頃の学校生活や各行事に参加する生徒が増えたか。 部活動の加入率71.2% 	<ul style="list-style-type: none"> 各行事や各検査の結果から、自分の置かれた立場を良く理解し、協調性や思いやりのある生徒が多くなった。 行事への参加意欲を持つ生徒数が増えた。 皆勤率(1年250名52%、2年217名52%、3年157名49%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育のさらなる充実を図り、3年間の継続性をもち、今年度以上に「生きる力」と心の教育の充実を図る。また、保護者の理解を深めるような催しの設定。
2	<ul style="list-style-type: none"> 教員の資質の向上を図るため、教員間の研究授業・校内研修・を行ったり、外部研修(教員セミナー、7つの習慣J等)に参加し授業改善の気運を高める。それに伴い生徒の進路意識を高め学力の向上を図る。また、生徒個々の能力や適性に則した進路指導の実現を図る。(安全教育の推進) 	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導、授業改善研究等、進路指導の充実と生徒の進路希望の実現。 学力の向上。 授業日数の確保 授業評価 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業や各種の研修による教科指導研究。 進路ガイダンス、大学出張講義等の充実。 受験対策講座・長期休業中のゼミの関連性を深め、生徒個々の取り組みと、補習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力が向上したか。 現役進学率95%とし、内大学進学率は80%とする。 生徒の進路意識の向上と受験対策講座参加率の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 模試からみられる学力の伸びはやや向上した。 現役進学率96%、内大学進学率76であった。 受験対策講座等の出席率9割を超えた。 センター試験受験者数(254名80%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 現役進学率95%とし、内大学進学率は80%とするための指導を検討。 第一希望に合格するための検討と指導。授業と受験対策講座の連携の充実。家庭学習時間の確保について。 特色ある特進クラスの検討。
3	<ul style="list-style-type: none"> いじめの撲滅と不登校生徒の減少を図る。また、保護者との連携・協力・情報の共有により学校生活の規律の徹底を図る。このことで、安心で安全な教育環境を構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見や悩みへの適切な対応。 服装容姿、携帯の取り扱い、清掃活動、出席状況等をきめ細かい指導。 防災訓練、安全点検の実施。 災害時の対応 緊急メールの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングや個別面談の充実。問題の発生を未然に防ぐための対応。問題発生時の迅速な対応。 年2回の防災訓練、教室の照度・二酸化炭素濃度の点検。 防災訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒の人数やカウンセリングを受けている人数とその理由。 いじめ等を感じている生徒の人数の変化。 与えられた家庭学習時間の実行率50%の達成。 緊急連絡のメール配信。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門のカウンセラーにおけるカウンセリングや、保護者との密接な連絡により、状況の把握がより明確になり効果が上がっている。また、いじめ問題に対しては迅速に対応できた。 防災訓練の実施(年2回、5月と12月) 緊急メールの配信数(年50件)。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組を継続し、カウンセラー、教員、保護者との綿密な連絡と相互理解を図る。 防災マニュアルの見直しとHPの活用。
4	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校を目指し、地域、保護者との連携を密にし、学校からの情報発信を推進する。 保護者後援会との連携強化。 地元中学校、関係教育機関との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの活用、学校公開、学校説明会の実施。 生徒募集 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子をHPでタイムリーに公開する。 10月に学校公開を行う。 ふじぞの祭・体育祭等各行事の案内。 中学生の上級学校訪問受け入れや中学校への出張授業や部活動等での交流。 学警連、川越警察署との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> HPの見易さと、情報の即時公開性。 HPでの動画の配信。 	<ul style="list-style-type: none"> HPに関してはおおむね良好。また、動画については多くの閲覧数(9万8千件)を得た。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある学校作りを目指す。生徒・保護者・地域からのアクセス件数の増加を図る。

学校関係者評価
実施日 平成26年 3月31日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育に7つの習慣Jを取り入れることで、山村独自のキャリア教育をさらに発展させて欲しい。 明るく活気あふれる教育活動を進め、学校の発展充実を図り、生徒・保護者の期待にこたえて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 数値的には、上限に近いものだと思うが、この数値を維持しつつ更なる上乘せを図ってもらいたい。受験対策講座や長期休業中のゼミに関しては現行を維持しつつ、さらに発展させて欲しい。また、数値目標中、学習時間については、自宅での時間なのか、生徒各自が選択する放課後の補習やゼミも含めてのものか整理してほしい。 生徒の不安や悩みを受けとめ指導・相談できるカウンセラー体制が整っていること、また、保護者の相談にも応じている点で評価したい。今後、生徒・保護者から寄せられた相談を、どのように解決し、事後指導していくか更に検討して欲しい。 不測の事態に対応するために、緊急メールの活用は有効だ。
<ul style="list-style-type: none"> ホームページやメールの配信は良いと思うが、生徒の携帯電話等の利用については、使用方法も含めて検討を要する。 行事では、9月の文化祭・体育祭・10月の学校公開が比較的短期間の中にあるので、年間を通してバランスの良い行事配分を検討して欲しい。

